

# 「KamuKamu交流Day」が目指す未来

林 克美（橋本市立学文路小学校）

## I はじめに

本校では今年度、近畿ESDセンターの支援を受けながら、「地域と繋がるにはどうすればよいのか？」というテーマで取組を進めています。地域との連携を具体化する取組としては「KamuKamu交流Day」という会を9月に立ち上げ、学校と地域の交流がスタートしました。この会では、学校と地域の交流や地域住民同士の交流、地域課題への取組等を行う予定ですが、そこに子どもたちも参画するのが大きな特徴となっています。子どもたちの参画は「持続可能な社会の創り手」の育成を目指すものであり、その出発点として大切にしているのが「当事者意識」になります。そして、子どもたちの当事者意識に影響を与えるのは、私たち大人の姿だと考えます。また、そのゴールを「共同体感覚」という人と人との関係性や繋がりに置いています。「自分の存在が他者によって認められていると相互に感じられるような関係性やコミュニティをつくる」ことが社会全体のWell-beingに繋がると考えます。

## II 実践の概要

### (1) 第1回KamuKamu交流Day

日時 9月19日(金) 15:30～16:40

場所 音楽室

参加 50名（教職員12名、地域住民28名、スタッフ10名）

テーマ 20個のテーマ（自分のこと、小学校の思い出、地域の様子、やってみたいこと、未来の姿など）の中から各班で自由に選ぶ。

その他 音楽やお茶・お菓子も用意し楽しい時間を過ごした。

### (2) 第2回KamuKamu交流Day

日時 11月3日(月) 14:40～15:35

場所 体育館

参加 約100名（教職員12名、児童50名、地域住民33名、スタッフ5名）

テーマ 学文路の昔・今・未来について

その他 この回は、創立150周年記念イベントの1つとして開催された。

## III 今後の展望

本校の取組はまだ始まったばかりですが、教職員や児童が参加する形を作れたのは良かったと思います。一方、残された課題は人集めの難しさにありますが、根気強くこれからも2カ月に1回のペースで継続していきたいと思っています。

本校は6年後の他校への統合が予定されており、今後は学校が中心となった運営から次第にその主体を地域へと移行させ、最終的には学校が地域に溶け込んでいくようなイメージを描いています。そして学校がなくなった後も、その校舎が地域課題を解決するための住民交流の場として機能していくことを期待しています。